

## 東京高円寺阿波おどり舞台公演にウクライナから避難された方を招待しました

本日、杉並芸術会館（座・高円寺）で、東京高円寺阿波おどり舞台公演（主催：東京高円寺阿波おどり振興協会、杉並区）が開催されました。

初演となった 27 日には、ウクライナから避難された方 36 人が招待され、迫力のある演舞を楽しみました。

高円寺阿波おどりは、昭和 32 年に商店街のイベント「高円寺ばか踊り」として始まりました。それから歴史を重ね、例年約 1 万人の踊り手が 100 万人もの観客を魅了する夏の風物詩となっています。

残念ながら今年も屋外公演は中止となりましたが、本日から 2 日間、座・高円寺にて「2022 夏 東京高円寺阿波おどり」舞台公演を行います。

本日の公演には、戦禍を逃れ、杉並区をはじめ東京近郊で避難生活を送っているウクライナの方 36 人が招待され、栈敷席を再現した舞台上で流しおどりを鑑賞しました。

この取り組みは、東京高円寺阿波おどり振興協会とウクライナ緊急支援寄附金の窓口となっている一般財団法人杉並区交流協会との協力により実現しました。また、日本ウクライナ友好協会 KRAIANY（クラヤニー）の協力を得て、杉並のみならず多くの避難民に声をかけることができました。

舞台公演では、各連独自のフォーメーションで息の合った迫力のある演舞を披露し、来場者から大きな拍手が送られました。

ウクライナから避難されたチェレムスカ・カテリーナさんは、「初めて高円寺阿波おどりを見ました。このイベントに招待していただいた方々に感謝の気持ちを伝えたいです。素晴らしい日本の文化と踊りを紹介していただきありがとうございました。」と語りました。



### 【問い合わせ先】

（ウクライナ支援に関すること）

区民生活部文化・交流課：03-3312-2111 内線3781

（阿波おどり公演に関すること）

産業振興センター：03-5347-9184

広報課：03-3312-2111（代表）